

一般研修コースについて

1. 種類と期間

一般研修は、受入企業での実地研修に先立ち、研修センターに合宿して集団で行われる導入研修です。下表のとおり、参加者の資格・条件と研修期間に応じて、4種類のコースから選択いただけます。尚、一般研修に参加せず実地研修を開始すること（不参加）も可能です。

一般研修コース種類別概要

種類	期間	参加対象者・条件	内 容	実地研修期間	全研修期間
J 13W	13 週間	受入企業で行う研修において、より高度な日本語能力が必要とされる者	日本語研修では、受入企業で行う研修や日本での生活に役立つ日本語能力の習得を目標に約 1,400 の語彙、150 の文型、仮名、漢字 300 字程度を学習します。※注 1 また講義や見学で日本の社会・文化・産業への理解を深めます。	25 日以上	1 年以内
J 6W	6 週間	日本での生活や研修において最低限必要な日本語能力を習得することが必要とされる者	日本語研修では、簡単な日常会話能力の習得を目標に約 800 の基本語彙、75 の基本文型、仮名、漢字 100 字程度を学習します。※注 1 また、講義や見学で日本の社会・文化・産業への理解を深めます。 (受入企業で行う研修中に仮名・漢字を全く必要としない場合は事前にご相談ください)		
A9D	9 日間	日本語能力が協会の定める一定基準以上の者 ※注 2	講義や企業見学等により、日本の社会・文化・産業への理解を深めます。	10 日以上	120 日以内
9D		研修生の理解できる外国語での実地研修指導態勢が整っている場合			
不参加		日本語能力が協会の定める一定水準以上の者（※注 2）または受入企業で行う研修において、研修生の理解できる外国語での指導態勢が整っている場合 過去 5 年以内に AOTS 日本理解・日本語研修コースに参加したことがある場合	/	10 日以上	120 日以内 過去に参加した AOTS 日本理解・日本語研修コース種類による。

※ 注 1 初めて日本語を学習する方の場合の目標数です。

※ 注 2 日本語能力試験 (JLPT) N4 以上か他試験での同等の成績証明書を提出していただきます。(詳細は 3. 参照)

2. 目的と構成

一般研修コースは、研修生が受入企業等で行う実地研修（個別研修）を円滑に進め、帰国後も学んだ技術を活かして活躍できるよう、以下の目的で実施しています。

- 1) 実地研修適応力を身につける⇒日本で安定した質の高い生活を送り、円滑に進めることができるよう、適応力をつけます。
- 2) 技術移転、普及力を養う⇒日本で習得した技術や経験を活かして帰国後に成果が出せるよう、業務推進力を養います。
- 3) 日本への親和性の向上を図る⇒日本の「モノづくり」のマインドとその背景にある日本社会・文化等への理解も深め、日本企業文化への親和性を高めます。

日本語研修や講義、産業施設などの見学、遠隔地での企業等見学などで構成されています。

- 1) 日本語研修 ⇒ J13W コース及び J6W コースでは日本語研修を行います（来日前から、各国語で利用できる e-learning システム（一部言語は開発が完了次第、リリースいたします）を活用して学習を始めていただきます。）。来日後コース初日に日本語能力判別テストを行い、J13W コース・J6W コース中の学習内容と使用教科書を決定します。限られた時間で効率的に実用的な日本語能力の向上を図るため、研修生の能力レベルに合わせた教材（「みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ」「新日本語の中級」等）と独自の研修システムで研修します。
- 2) 講義 ⇒ 日本の社会や人、あるいは日本企業の特徴等を理解するための講義・演習等を実施します。
- 3) 見学 ⇒ 産業施設などの見学を実施します。
- 4) 企業等見学（遠隔地）⇒ J13W コース及び J6W コースでは2泊3日で遠方の企業等を見学します。移動や宿泊を通じて、生活基礎力を強化するとともに、日本社会や日本企業・産業施設への理解を深めます。

3. A9D コース参加要件について

1) 日本語能力レベル

テスト名	参加要件レベル	試験実施頻度
日本語能力試験（JLPT）	N4 以上	6 カ月に一回実施
実用日本語検定（J.TEST）	E 級以上	2 カ月に一回実施
JLCT Japanese Language Capability Test	JCT4 以上	3 カ月に一回実施
STBJ 標準ビジネス日本語テスト	BJ4 以上	3 カ月に一回実施
TOPJ 実用日本語運用能力試験	初級 A-4 以上	2 カ月に一回実施
日本語 NAT-TEST	4 級	2 カ月に一回実施
J-cert 生活・職能日本語検定	A2.2（準中級）以上	3 カ月に一回実施
JFT-Basic 日本語基礎テスト	合格	2 カ月に一回実施

2) 日本語能力レベルの確認方法

- ①参加要件レベルの成績証明書を提出してください。成績証明書は申込書類審査日を基準に過去3年以内のものとしします。
- ②3年以前に取得した成績証明書の場合、「日常的に日本語を使って業務を行っている」「日本語学校に通学している」等の申告とともに、成績証明書を提出してください。なお、「学習履歴等（4年制大学日本語学科卒業証明書等）の資料と AOTS による Web 面談等」により、参加要件レベル以上の日本語水準であることを確認することがあります。

以上